

藤井 哲也議員 （初問部分省略）

結城総務部長 ご質問にお答えいたします。

1 点目の J R 大津駅利用者等に対するニーズ調査経費についてであります。総務部の査定段階では、年内の方針決定を行うべく専門性を有するコンサルタント業者への委託が有効と判断したうえで、必要なアンケートとその分析にかかる経費として査定したところであります。二役の査定において、今後の方向性を十分に検討するため、より多くの意見を聴取すべきとの観点から、アンケート調査の充実を図り、増額されることとなったものであります。

次に、地酒開発試作経費についてであります。市長マニフェストにもある 6 次産業化や食のブランド化を促進するものであり、さらに平成 27 年度の和邇インターチェンジにおける道の駅の開設を視野に入れ、コメの新品種を活用した特産品を開発するにあたり、商品化の可能性を探るため本市が専門の事業者へ製造委託するものとして査定したものであります。また、商品化の検証や事業者との協議など、道の駅開設準備にあわせたスケジュールを踏まえ、今回の補正予算に計上し、このことを二役にも説明し了解を得たものであります。

以上、私からの答弁といたします。

藤井 哲也議員 再質問いたします。

ご答弁の中で、財政課において査定したものよりも、市長によって増額した理由については、より多くの意見を聞くということとご答弁がございました。それに関して再質問を行います。

財政課は、大津駅改修にかかるアンケート実施業務委託費のうち、調査項目の検討、アンケートの解析については、委託における工期が十分に確保できないことを理由に庁内で行うことを求めたと事前に確認しています。また財政課は、計上額の内訳によると、都市計画部が要求した大津駅改修に伴う基本計画策定業務のうち、計画図の作成、概算事業費の算定、イメージパースの作成 2 案、計 290 万円をゼロ査定とし、また基本計画の検討、整備の方向性についてのみ 60 万円であった額を、調査項目の検討、アンケートの解析をゼロにしたことを踏まえて 90 万円に増額をしています。すなわち、今回の積算根拠となっている業務に限ると、都市計画部の要求は 160 万円であり、財政課査定では 140 万円に 20 万円減額されており、逆に市長による二役査定では、ここから 310 万円アップしまして 450 万円に増額をしています。期待する成果に見合うだけの報告が得られるに必要な委託期間は確保できているのかについては、どのように考えていらっしゃるのか、また予算の根拠が、私は先ほどいろいろ多くの意見を聞くということとございましたけれども、当初の都市計画部の予算要求の段階で既に 1,000 件のサンプルをとるといようなことで要求があがっていたはずですので、そういった点で、数より広く、より多くという点では、こちらで十分対応可能なのかなあとと思います。ちなみに、都市計画部の予算要求の段階では、この部分については 50 万円に要求されていますので、そこから大きく、市長が独断

により、何らかの理由で増額をしているわけでございますので、この点について、どういふふうな理由で市長が考えてらっしゃるのかについてお伺いできればと思っております。

この点については、二役査定の内容でありますので、ぜひとも市長からお伺いしたく思っております。

結城総務部長 再問にお答えいたします。

アンケート調査でございますが、もともとの要求よりも増えたというようなことございます。これにつきましては、サンプル数もありますが、さらに精度を上げるということから、調査方法の検討も含め、そういったことで経費が増えたものと理解しております。

以上でございます。

藤井 哲也議員 再質問いたします。

それとあと、先ほど質問を1項目させていただいた、委託期間が十分なのか、間に合うのかについてもまたご答弁いただければと思いますけれども、今部長からのご答弁に対する再質問でございますけれども、質と申しますか精度を高める、そういうふうな部分で310万円増額したというようなことございますけれども、どういうふうな精度が上がるのかについて、これ予算議案でございますので、明確に、納得できるようなご説明をいただかないと、なかなか私としましては難しい判断になるのかなあと思っておりますので、それで納得できるやろうということでご理解されてらっしゃるのであればご説明は不要かと思っておりますけれども、その点について、もう少し詳しく、どのような精度が上がるのかについてご説明いただければと思います。もし、部長が難しければ市長でお願いします。

越市長 それではお答えいたします。

精度が上がるかという点についてですけれども、正確に申し上げますと、当初の要求が450万円、それで査定が140万円、それで再協議の後が450万円というふうになっていきます。まず、調査項目の検討として20万円を60万円ということで、これは調査票の設計というものについても、委託業者の知識を借りることでより精度が高いものができるだろうというふうに思っていました。またウェブアンケートについても、より多くのサンプルをとることで精度が上がるだろうというふうに考えています。それ以外に対象を増やしまして、駅利用者へのアンケートということで、こちらを130万円程度大幅に増やしています。これは、駅の利用者に対して、やはり直接話を聞くということで、どのような駅であれば利用しやすいかというようなことを、しっかり利用者の声を聞くべきだということで増やしております。こういったことで、精度が上がるというふうに考えています。

以上でございます。

藤井 哲也議員 再質問いたします。

先ほどの委託期間についての十分な時間があるのかについては、またご答弁いただけるものと思っておりますけれども、今先ほどの市長のご答弁に対する質問でございますが、私が取り寄せていると申しますか、いただいた資料に、都市計画部が取り寄せられた見積書があるんですけども、この中に、既に市長が今述べられたことについては書いてあるわけですか。

よね。ということは、もう予算要求段階でそういったことが入っているものとして予算が内部で上がってらっしゃると思うんですよ。なので、あえてそこに増額するという必要性がありませんので、その点についても一度、理解できるようにご説明いただければと思います。あと、ウェブも一緒ですね。ウェブもこちらのほうで既に入っていますので、その点についてもご説明をお願いします。

越市長　ちょっと今、質問の意味がわからないんですけども、金額を増額すること、設問としてはあったとしてもですね、まず調査項目とウェブアンケートについては、もともと要求段階であったけれども、その金額を増額したということでもあります。金額を増額することによって、より精度が高いものにしようとしたということでもあります。また駅利用者へのアンケートというのでは、もともと要求段階では入っていなかったものです。以上でございます。

結城総務部長　再度の質問にお答えいたします。
委託期間でございますが、委託期間は十分であると考えております。
以上でございます。

藤井 哲也議員　再質問いたします。
それでは、先ほど部長からの答弁にもありましたけれども、精度を上げるという観点がありました。これについて、増額分がどのように効果があるのかについて、明確なるご答弁をいただきたく思います。それと、部長からのご答弁について、委託期間が十分であるということでございますけれども、それであるならば、具体的にどのようにスケジュールを組んでらっしゃるのか、今想定していらっしゃるところで結構ですけれども、それについて十分だということをご説明いただきたく思います。

越市長　まずどうやって精度を上げるということは、まさに先ほどお答えしたとおりです。もう一度繰り返しますと、調査項目の検討については、金額を増額しています。これは、調査票の設計も含めてコンサルタント業者に任せることによって、より精度の高いもの、専門性の高いものにしようということでもあります。次に、ウェブアンケートについては、こちらについてより多くのサンプルを効果的にとるということで、より多くの市民の声を反映しようというものであります。また駅利用者へのアンケート、これももともとなかったものを加えておりますけれども、駅利用者の実際の声を聞くことによって、より実際に利用している方の声を聞くことによって、当然ながらより身近な精度が高いものができるというふうに思っております。以上でございます。

川端都市計画部長　再度のご質問にお答えをさせていただきます。
この議決をいただければ、すぐに発注させていただき、調査の設計をコンサルタントに契約後、調査の設計を進めていただく、調査の設計ができれば、調査項目等の設計をすれば、調査の実施に入ります。その後、項目の結果が出れば、分析をして、方向性を年内に

は出したいというのは先ほどの答弁にも説明したとおりでございます。さらに、J Rとの協議あるいは関係団体の協議というのも説明したかと思えますけれども、あわせて年度内に整備の方針をというふうに考えてございます。

以上でございます。

藤井 哲也議員 再質問いたします。

持っている資料につきましては、また公開いたします。

再質問でございますけれども、市長が先ほど答弁いただきましたが、サンプル数は当初から、予算要求段階から1,000件のはずだと思えますけれども、これについて、今の市長のご発言でしたら増えるのかなと認識しているわけなんです、その点についてお伺いしたく思います。それと、部長からのご答弁ございましたけれども、こちらにつきましては、私の認識では、今これ議決したら、今月24日に議決事案でございますので、その後入札であったりとかプロポとかのほうに進んでいくと思えます。大体2週間ぐらいかかるんだろうと思えますけれども、そこで業者を選定して、それから1カ月もしくは2カ月以内ぐらいですかね、調査及び検討結果が出てくるということで、11月中には難しいのかなと思えます。その後、中心市街地活性化協議会のほうに諮ると、こういうスケジュールで考えていてよろしいのかについてお伺いいたします。

越市長 サンプル数につきましては、査定の段階、協議の段階におきましては、なるべくサンプル数を広くとるべきだということで、この点増額しております。

以上でございます。

川端都市計画部長 再度のご質問にお答えいたします。

先ほど申し上げましたように、調査の結果、その後の分析等によってJ Rとの協議の方向性というものをできる限り早期ということをおっしゃりましたが、できるだけ早く年内に出したいというふうに考えております。

藤井 哲也議員 再質問いたします。

市長、今先ほど1,000件を超える、できる限り多くということだったんですけれども、予算を計上されてらっしゃる以上、ある程度想定されてらっしゃるサンプル数があると思えます。その点についてお伺いいたします。

越市長 なるべく多くサンプル数をとるべきというふうに申し上げましたけれども、具体的に何件にするということは、予算査定の時点で具体的な数字については結論を出しておりません。

以上でございます。